教点連ニュース　平成22年度第4号　No.15

＜平成23年3月29日発行＞

【平成22年度 第2回セミナーのご報告】

日時：平成22年11月28日（日）　13:00～16:50（12:30より受付）
場所：名古屋ＩＭＹホール
テーマ：視覚障害生徒の高校における学習環境について
参加者：84名
平成22年度秋のセミナー報告

今回は、「視覚障害生徒の高校における学習環境」をテーマに、愛知県で採用されている事例報告と合わせて情報交換が行われ、当日は84名の方に参加いただきました。

前半は基調講演として、鳥山由子氏（元・筑波大学教授）より、「高校における点字教科書の製作と教科の専門性」についてお話いただきました。特に、理科教科書を中心に、点字教科書の製作方法や編集方針について触れられました。例えば、墨字教科書に掲載されている写真や図、実験内容について、点字教科書で説明を加えたりする場合、学習指導要領の学習目的に沿うようにしながら編集で手を加える場合もあること。また、本来、授業では実物があるものは実際に触って内容を理解させ、抽象的概念を表す矢印のように、触ることができない重要な記号は、そのまま図に表すなど、盲学校教育において様々に工夫が重ねられてきたことをお話いただきました。

また、拡大教科書の編集方法についても参考例として取り上げられました。点字教科書では絵や写真を省略せざるを得ないこともしばしばですが、拡大教科書では写真や絵の内容を編集したり削除したりすることはできないことや、レイアウトにもかなり工夫が必要であることが模範例とともに示されました。高校生になると、試験対策についても考慮していかなくてはならない。その上で、教科書は教員が傍に付いて説明しながら使うものであるのに対し、試験は自力で読み解かなくてはならない。それをクリアするために日ごろから技能を身につけ、そのための配慮も必要だとおっしゃっていました。

最後に、今後、視覚障害生徒が普通高校に通う上で専門性を備えた盲学校の教員によるフォローが必要であり、そのためにも盲学校との連携が重要であると述べられました。

次に、田中理事長より2010年秋に各都道府県・政令指定都市の教育委員会に対して行なった「一般高校に在籍する視覚障害生徒の点字教科書調査」に関するアンケート結果の報告がありました（別紙参照）。その後、加藤理事より、この秋に完成したパンフレットについての説明がありました。

続いて、普通高校に学ぶ視覚障害生徒の支援に関するシンポジウムが行われ、5名のパネリストの方にお話いただきました。

まず、普通高校への受け入れと現状について、愛知県学校教育課課長補佐の柴田悦己氏よりお話していただきました。平成21年度に愛知県で初めて公立高校への視覚障害生徒の入学があり、他県の例を参考にしながら進め、21年度途中から教材点訳の支援を行なっていること、定期試験は盲学校に協力依頼し、点訳を行っていることなどが報

告されました。

次に、愛知県立名古屋盲学校高等部主事の下田幸氏と、愛知県立岡崎盲学校の奥田優氏より両校において、生徒本人や学校への指導援助とその連携についてそれぞれご報告をいただきました。両校とも定期試験の点訳、担当教員への研修会を開催している他、各生徒の授業見学に出かけていること。そして、今後も、さらに専門的な指導が行えるよう、盲学校の教員の指導力も高めながら、高校との連携・協力を測っていきたい。また、生徒の進路相談、および日々の生徒の様子（反応）なども把握できるように努めていきたい、とのことでした。

次に、現在日本福祉大学に在学する高谷春菜氏より、自身の高校時代の経験談をお話いただきました。元々弱視で、小学校5年生から点字に切り替えたが、読書好きだったこともあり点字もすぐに好きになりました。中学も普通校だったので、高校進学も迷いなく普通高校に行きたいと思っていた。高校進学後は、学内のサポートはなく、教材を教員からデータを送ってもらい点字に変換して読んだり、友人や教員に読んでもらったりしていた。教員の中にはすでに点字に変換してデータを送ってくれることもあった。教科書や参考書など点訳してくださっているボランティアに感謝しつつも、その気持ちに気負うことなく進んでいけばいいと思う、と力強くお話いただきました。

最後に、教材点訳のサポートをされている、点訳グループぽちの会の長江まゆみ氏より点訳作業の難しさについてお話いただきました。点訳ブループで依頼を受け、週に3日、1回2時間半ずつ学校で点訳を行っている。点訳に際し各教科特有の注意点とはどのようなものがあるのか、担当ボランティア間でスムーズな連絡が取れるようノートを作るなど工夫されている点が述べられました。今後の課題としては、教員、生徒、サポートボランティアとの意見交換の場を設けてほしい、専門点訳に関する相談窓口がほしいといった意見が出されました。

質疑応答では、

Q.専門点訳の解説書がほしい。

A.墨字には様々な記号があり、点字で体系化したものを点訳するのはなかなか難しい。それぞれの科目、さらには各図書によって記号の扱いが異なっても仕方がない。

Q.高校合格から入学までの教科書点訳の準備の流れはどのようなものか。

A.情報収集を行い、合格前から前倒しで教科書点訳を依頼していた。入学後は教員の理解が得られているのでスムーズに進められている。

今回のセミナーで様々な立場の方のお話を伺い、さらに盲学校（特別支援学校）と普通校とが連携し、いかに専門性を高めていくか、また教材点訳充実のために工夫・改善が求められているかということがわかりました。また、学校だけでなく、学ぶ本人の学習する技能などを身につけることも必要であると確認された内容でした。

ご講演いただきました皆さまに改めて、深く感謝申し上げます。

文責　奥野真里

「点字教科書利用促進パンフレット」が完成しました！

平成22年度の事業目標の一つであった、当会のパンフレット製作が終了し、昨秋のセミナーで参加者にお披露目されました。

このパンフレットでは、
・点字教科書の供給体制を充実させ、その利用を促進すること、
・点字教科書の制度、製作基準等について簡潔にまとめ、都道府県・政令指定都市の教育委員会、原本出版会社、学校関係者、および、点字使用児童・生徒の保護者等に周知を図ること、を重点におき、製作しました。

委員は、加藤理事を委員長に、長岡理事、野々村理事、奥野、そして視覚障害支援総合センターの橋本さんにもご協力いただきました。

大きさは、A4 版で、4 ページ。

実際の様子を伝えるために、教科書を使用している児童の写真を掲載している他、教科書の申請からお子さんの手元に届くまでの流れをフローチャートにするなど、工夫をこらしています。

すでに、各都道府県、政令指定都市の教育委員会にパンフレットを送付していますが、今後、問い合わせのあった方や様々な機会にこのパンフレットを配布し、一人でも多くの方に当会のことや点字教科書の存在を知っていただけるよう働きかけて行きたいと思います。

【平成 22 年度第 3 回理事会記録】

日時：平成 22 年 11 月 28 日（日）11:00～12:00
場所：ＩＭＹホール
参加者：田中、池村、加藤、込山、鈴、高橋（支援センター）、野々村、原田、福山、古谷、牟田口、奥野
司会：奥野
議題：

1．当日のセミナーの進行を確認した。

2. パンフレットの完成報告：教育委員会、出版社等に主にパンフレットを見てもらいたい。今回は点字版は用意しない。各自パンフレットのことを PR してほしい。ただし、各方面に配布する部数を概算し、送付するようにする。（加藤理事より）

3. 予算について：今年度は、パンフレット製作を実施したために、繰越予算が少ない。来年度の予算の運用については、2 月の理事会で話し合う。

4. 2 月の理事会の検討内容：来年度の製作マニュアルについて、来年度予算・事業計画について、ホームページ管理の検討

【平成 22 年度第 4 回理事会記録】

日時：平成 23 年 2 月 25 日（金）13:30～16:30
場所：日本点字図書館会議室
参加者：田中、池村、加藤、込山、鈴、高橋（英）、高橋（実）、原田、福山、古谷、奥野、松本
内容：1. 平成 22 年度総会開催について
①平成 22 年度事業報告及び 23 年度事業計画、②平成 22 年度決算報告および平成 23 年度予算報告　③理事の補充　④その他

2.理事改選について

原田理事が、当会理事を退任されることになり、その後任として名古屋盲人情報文化センターの松崎直美さんに依頼することとなった（本人へ確認中）。

3.平成23年度第1回セミナーについて

日時：6月11日（土曜）13:00～16:30

場所：日本点字図書館

テーマ：「視覚障害に配慮した点字教科書のあり方」

内容：小学校算数、社会の製作に関わる著作本編集委員と、点訳ボランティアに製作報告をいただき、実際の教科書も示しながら参加者に触れてもらうようにする。

進行：込山氏

プログラム：

13:00～	挨拶（理事長）
13:10～13:50	「さんすう　１」の配慮　特別支援教育総合研究所 大内進氏
13:50～14:10	「さんすう　１」の原本の情報　点Ｖ連　寺田裕子さん
14:10～14:50	「しゃかい３？」　筑波大学附属視覚特別支援学校 青松利明氏
14:50～15:10	「しゃかい３？」　（ボランティア団体　未定）
15:10～15:40	（休憩時間）＜製作された点字教科書を比較しよう＞
15:40～16:30	質疑とまとめ　理事　加藤俊和氏
16:30	閉会挨拶（高橋秀治副理事）

4.文部科学省との意見交換会について

3月1日（火曜）

当方の提案内容：

・通常学校に在席する児童・生徒数の調査の実施、

・特別支援学校で配布される、小学校1年の入学時に配布される、点字や図形の教育教本や、中学校1年の英語点字の教本（付録）を、統合教育を受ける児童・生徒および、就学途中で点字に切り替えた児童・生徒にも供給されるようにしてほしい。

5.『インクルーシブ教育における点字教科書製作の手引き』について

現在、製作費用の助成金を申請し、結果待ちの状況である。今回は、各教科の大まかなガイドラインと事例を示しながら、各分野の代表者に執筆を依頼する。助成金の有無が確定しだい執筆者を検討する。

6.その他

・実態調査を来年度の6月頃に実施。その結果をホームページに記載する。

・児童・生徒以外の視覚障害を持つ保護者、教員などから点字教科書の依頼があった場合、どのような価格設定にすれば良いか。

→データをやりとりする価格を目安に行う方向でいいのではないか。この件についても今後検討する。

【教点連 ボランティア団体のご紹介】

青垣会（奈良県）

（青垣会　大杉）

青垣会は点訳ボランティアグループです。
まずその沿革を年次毎に簡単に列記しましょう。

1962.12　奈良県盲人福祉センター開設
1963.6　点訳奉仕会誕生、センター蔵書の点訳を開始する
1966.10　「奈良県盲人福祉友の会」創立
1977.3　「青垣会」の名称ができる
1984.12　点字カレンダーの作成・発行開始
1985.10　親子で楽しむ「触る絵本」作成・発行開始
1985.11　「光村国語学習辞典」の点訳開始
1987.9　NHK ラジオ英語講座テキストの点字版発行開始
1988.1　「てんやく広場」（現・ないーぶネット）に参加、パソコンに依る点訳を開始
1989.5　「光村国語学習辞典」点字版完成
1993.4　統合教育生のための教科書点訳を開始
1994.3　福祉センターの移転と名称変更に伴い「奈良県視覚障害者福祉友の会」と変更する

ながい長い歴史があります。現在会員数 144 名です。

又、教科書点訳については　青垣会が教科書点訳をはじめて約 15 年。今までに、小・中・高・大学と各学年いろいろな教科を点訳してきました。今年度は理科の教科書だけです。ちょっと一休み状態です。

いままでの点訳したものとして、英語は学年に応じて 1 種と 2 種の使い分け。社会は学年によって、図は手作り（丁寧すぎるとの声もありますが）をしています。青垣会の教科書の特徴として依頼があれば全教科が点訳できます。ぜひご連絡をお願いいたします。

発行日：平成 23 年 3 月 29 日
発行所：NPO 法人全国視覚障害児童・生徒用教科書点訳連絡会
ホームページ：http://kyotenren.web.fc2.com/
発行人：田中徹二
連絡先：（社福）日本点字図書館内　担当：田中・松本
〒169－8586 新宿区高田馬場 1-23-4
Tel：(03)3209－0241 Fax：(03)3204-5641
E-mail：matsumotom@nittento.or.jp
振込口座番号：0180－7－262151